季刊誌「樂」2号より

8月9日11時02分。市民はどこにいても黙祷を捧げる。

1945年8月9日午前11時02分。
広島への原爆投下から3日後、この平和祈念像から約500m南側の上空で原子爆弾が炸裂。
約15万人の人々が死傷しました。
平和祈念像は、長崎出身の彫刻家、北村西望氏によって制作されました。
天を指した右手は“原爆の脅威”を、水平に伸ばした左手は“平和”を、
軽く閉じた瞼は“原爆犠牲者の冥福を祈る”という想いが込められています。
原爆資料館では、被爆の惨状だけでなく、投下の経緯、復興の様子、
核兵器開発の歴史、そして核兵器のない平和希求が展示されています。
原爆資料館に入ると書いてある言葉「長崎を最後の被爆地に」。
その願いを込めて、その日、その時、市民は黙祷を捧げます。
私たちは今もなお、人間が起こす戦争という悲劇に向き合う時間が必要です。

平和祈念像/原爆資料館

長崎で、会いましょう。

一般社団法人 長崎国際観光コンベンション協会